2010年（平成22年）11月18日（木曜日）

東京新聞

# 田母神氏に謝罪求める

## 元女性自衛官「著書で名誉棄損」

政府の歴史認識と異なる論文を発表し、更迭された田母神俊雄前航空幕僚長が退官後に著した「自衛隊風雲録」（飛鳥新社）でプライバシーを侵害され、名誉を棄損されたとして、元航空自衛官の女性（二四）が十七日、書面による謝罪と謝罪意思の公表を求める通告書を田母神氏側に送付した。女性は回答によっては法的手続きをとる構えだ。

この女性は、北海道の空自基地で勤務中、同僚の男性自衛官からわいせつ行為を受け、相談した上司に退職を強要されたとして国に損害賠償を求め提訴。今年七月、札幌地裁が性的暴行と退職強要を認め、国に五百八十万円の支払いを命じ、判決は確定した。

通告書によると、田母神氏は著書で、空自警務隊の調査結果として女性の事件を「男女間の〝いざこざ〟のたぐい」「女性はやや精神的に不安定で、二回ほど入院した経歴」と記述。しかし、女性の代理人の佐藤博文弁護士は「札幌地裁が『女性の意思に反した行為』と認定し、男女のいざこざでないことは明らか。入院したかのような記述も事実に反する」としている。

通告書は、記述が女性への二次被害とし、謝罪と離職後も職務上知り得た秘密を漏らすことを禁じた自衛隊法に違反すると認めるよう求めている。

### 本売る道具にした

元航空自衛官の女性の話（田母神氏は）しないばかりか、私の事件を本を売るための道具として使い、さらに個人が特定できる情報を公にした。私は深く傷つけられた。謝罪を強く求めます。

### コメントできない

田母神事務所の話田母神が地方にいて通告書を読んでおらず、コメントできません。

性暴力の深刻さを理解